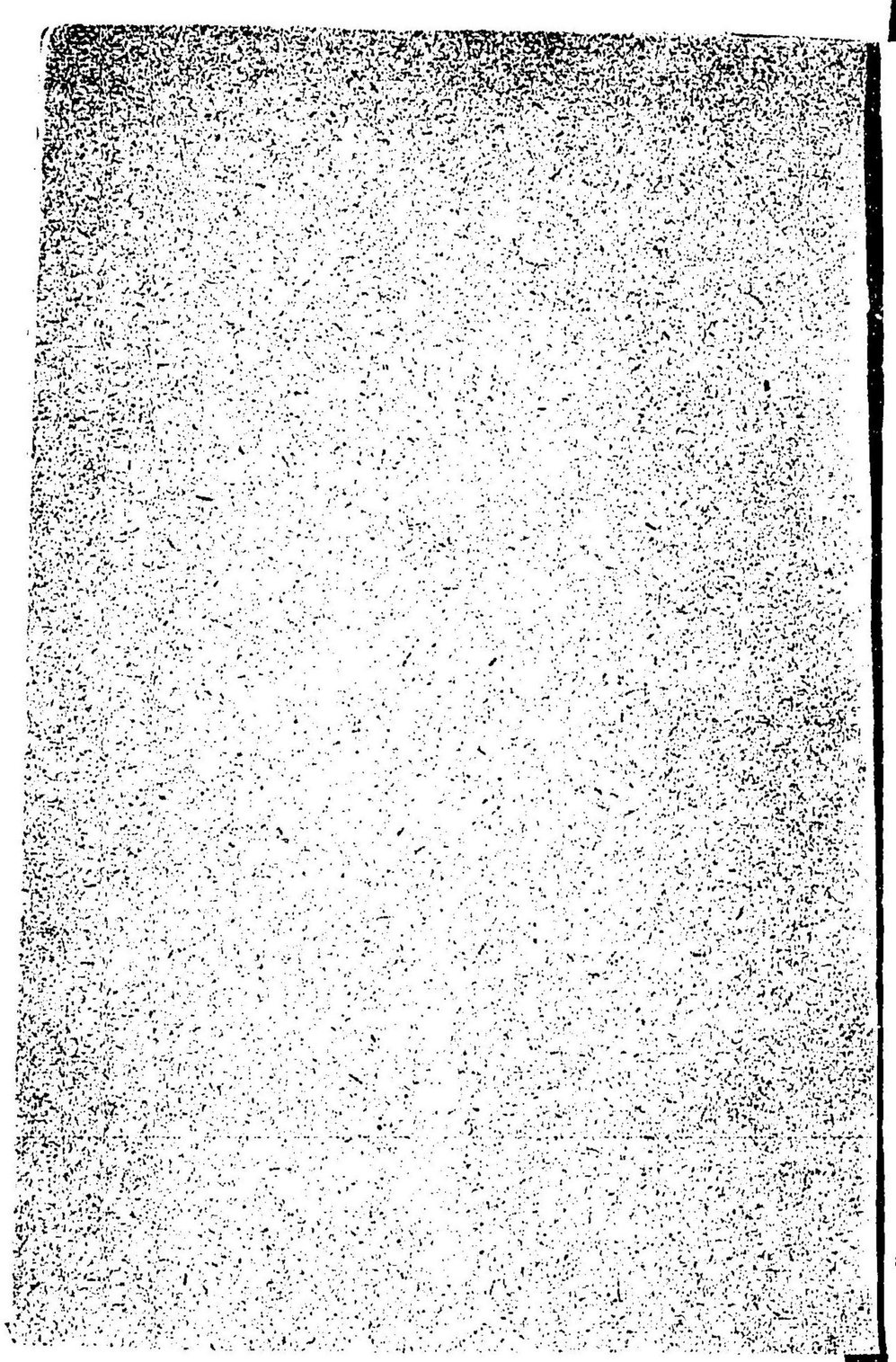
特66
449



序詞

豚肉を肴に軍艦麥酒を倒し。慈姑を職食で正宗を煽り。起て『衣笠山』を吟じ。座「やッつけろ！」を歌ふ。陸海大捷の宴洵に盛なりと謂へ！。我れ貧乏を質に置ても豈に一杯の祝酒なくして可ならざるべからざらんや喃漢と。チ（ビ）ク遣りなれば唸る積りで大切の草稿を持出せしに。忽ち生捕られて。世にさらされ。人に

豊島イヤサ放蕩の果と疑はれるこそ。口惜しき業なれと。述懐めいた。はしがきをならべるものはそんぢよそおらの

明治甲子十月

月の家かつら誌

訂正一支那増補一征伐

はやり歌序

俗歌は人心によりて作られ。また人心を作る。社會將ゑ亡びんとするや。必らず淫靡なる俗歌現はれて益々淫靡ゑせしむ。一國大に振はんとするや。必ず勇壯活潑なる俗歌現はれて。人皆な之を謠ひて其心大に振ふと。今や我國ハ東洋の天地ゑ空前の大活動を發するの時。人心既ゑ勇みて必ずや勇猛快活の歌あるべく。また斯る

歌ありて大に社會の氣風を振起せしむ。此際同胞五千万と共に朗々として高歌放吟するに足る如き。天曠海闊の歌を蒐輯し。以て人心を鼓舞し。日本人の思想如何に激越せるやを世界に知らしめんとす。本書の世に公けにせらる蓋し偶然にあらざるなり以て序とす

明治乙未花月　梅の家かほる誌

訂正増補　支那征伐流行歌目次

○お坐附　一丁
○日清端唄
我もの　二丁
紀伊の國　四丁
兼てより　五丁
髪のほつれ　六丁
因州因幡　七丁
春さめ　八丁
春は花　仝丁
ほれて通ふ　九丁
雨の夜　九丁
かあい〳〵　十丁
忍ぶ夜　仝丁
色がある　十一丁
翁ぐさ　仝丁
松づくし　十二丁
淀の車　十三丁
十日戎　十四丁
夕暮　十五丁
越後じゝ　十六丁

むつとして　十七丁
綱は上意　仝丁
羽織たゝんで　十八丁
更て逢ふ夜　仝丁
我戀　十九丁
廻る車　仝丁
越後の國　仝丁
忍ぶ戀路　二十丁
勝いくさ　仝丁
○あさくとも　二十一丁
○日清萬ざい　二十二丁
○大勝利ぶし　二十四丁
○薩摩武士踊　二十六丁
○都々逸　二十八丁
○文句入都々逸　三十五丁
○宮さん〳〵　四十丁
○ギッチョン〳〵　四十三丁
○ホウカイ節　四十六丁
○ノーエぶし　四十七丁
○縁かいな節　四十九丁
○愉快ぶし　五十三丁
○やッつけろ節　五十四丁
○大津繪節　五十五丁
○義太夫さわり　五十八丁

○オッペケペ節　六十丁
○清軍歌　六十二丁
○權兵衛が種蒔　六十五丁
○支那ぶし　しおぐ　六十六丁
○日清かぞへ歌　六十七丁
○仙臺ぶし　七十丁
○名古屋甚句　七十二丁
○金來々ぶし　七十五丁
○茶の子ぶし　八十丁
○城の馬場　仝丁
○月琴曲譜窮憐漢　八十一丁
○勇壯浮世ぶし　八十二丁
○伊豫ぶし　八十三丁
○清編笑愕讀本　八十六丁
○阿房陀羅經　八十九丁
○日清一ト口講談　九十五丁
○狂句　九十九丁
○狂歌　百六丁
○當世唐詩摘句見立　百九丁
○メチヤ〳〵節　百十一丁
○聞いちよくれ節　百十五丁
○推量ぶし　百十六丁
○シンカラ節　百十八丁
○子規時事の一聲　百十九丁

○才見ぶし　百二十丁
○海あん寺　百廿一丁
○丹後の宮津　百廿二丁
○ヒャ〜〜ぶし　百廿三丁
○一口ばあし　百廿五丁
○雑の部　百廿六丁
人を助くる　大黒天
お前まち〜〜　薩見良節
他呑節　琉球節
おやまかちやんりん
古茶江節
○狂詩　百三十丁

訂正増補　支那征伐流行歌目次　終

訂正増補　支那征伐流行歌

月の家かつら編撰

○御稜威輝く。日の本の國の光りは。いやまして外に敵たふ國なく。日本武士とて仰がるゝサテ浦山し(チヤン)いさはしは

○例もなき忠義ゑ篤き壮夫が凱歌謠ふて歸る日ハ。國の花と

や詠むらん(チヤン)おやかましう。

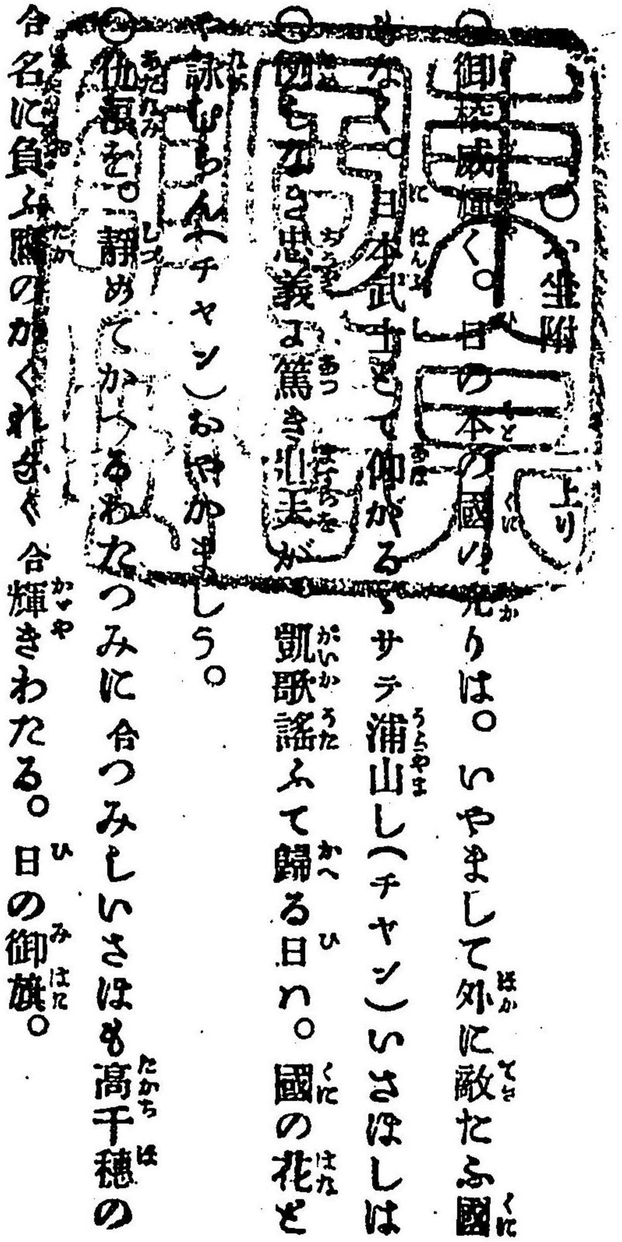
○仇涙を。静めてかへるわたつみに合つみしいさはも高千穂の

合名に負ふ鷹のかくれなく合輝きわたる。日の御旗。

訂正
増補

支那征伐流行歌

月の家かつら編撰



御旗成画く。日の本の國の光りは。いやまして外に敵たふ國
なく。日本武士として仰がるゝサテ浦山し(チャン)いさはしは
仰ちかを思義を篤き壮夫が凱歌謠ふて歸る日ハ。國の花と
詠ぜちん(チャン)おやかましう。
仇敵を。謂めてかゝるわたつみに合つみしいさはも高千穂の
合名に負ふ鷹のかくれなく合輝きわたる。日の御旗。

日清端唄

○我もの

○我物と思へば輕き日本刀。村田小銃を肩にかけ斥候に行けば冬の夜の。山風寒く身に浸ど。あすは我等の大勝利。ホンに愉快じやあいかいな。

○馬鹿ものと思へばあはれ支那の兵。國のひろひを鼻にかけ。いざせめ行けば豚の身の。たゝかひにぶく。智略あく。敗てゝつのる逃げ心。實に弱いじやないかいな。

○我ものと思へばうれし支那の土地。國の御旗を先にたて。攻め取り行けば日の本の。太刀風寒く豚尾あく。逃ぐるに早き敵のやつ。ほんにいくぢがあいわいな。

日本の兵士「わがものと思へば輕し。肩のつゝ國の重荷を背なにのせ。海山越えて滿洲路。北風寒く肌を裂く。待つ身につらき凱歌じつゝ辛氣じやないかいな。

支那の兵士「わがものと思へば輕し腰の金。君に買れしつとめの身。露のなさけのなくゝも逐れて逃げる千鳥足。待つ身につらき降參や。實にのん氣ぢやないかいな。

○紀伊のくに

○聞てさへ。喜ぶことは。皆ながちに働き玉ふい征清軍。軍艦十二艘うち沈め。さて陸軍の勢ひは。九連城鳳凰打拔いて。狐の食する奉天府。かつぐんは號令勇み立ち。二軍いたゞちゑ旅順口。さしづめ北京は町騒動。チヤン〳〵坊主チヤン坊主。李鴻章い眞ッ先きホロ〳〵とほへづら。支那人逃げいだす。ほまれあげたる日本國。

南都　鶴子　調

○朝鮮の國い大同江の源上ゑ立せ賜ふは日本兵。船手も充分大勝利さて本國の祝ひには。赤玉花火で賑かにいつれも喜び御献金。勝のも道理じや。勇ましや。支那めも涙で袖しぼり。さしづめ殺すい李鴻章。チヤン〳〵坊主みな逃げる。進むは我兵。まつくるくるりと取巻き。落すは北京城。こまて負たる支那の面。

南都　鶴子　調
神戸　無名氏　作

○かねてより

○兼てより戰爭上手と買かぶり氣にした敵のむ城さへ見事破りし日本兵。虎の威を借る支那兵は泣くど逃るの野良狐。ほんゑ不憫じやあいかいな。

○小さくとも强き譽れの皇國兵とんで愉快の豚の首。降つて來

だか平壤を命ち惜いじやないかいな。

○かねてより弱い奴だと知りながら。わづかで落た平壤もいつでも敗る豚尾兵。金にくらんで出た奴いほんに今では泣ばかり實に弱いじやないかいな。

○兼てより軍さ上手と聞きながら。日本が攻めた旅順口のいつしか取られて。うらめしい。敗けて耻かく支那の兵。いつも日本に敗けばかり。ほんよ遣るせがあいわいな。

○鬢のほつれ

○金を出そのは御國の爲めよそれをお前に分らぬか。つとめじや義務じや出さんせ。

○因州いなば

○金州半島の旅順にて。しかも砲壘の其なかで。支那兵が三人出合ひして。さきなるお芹子が弱虫で。中なる豚尾が臆病で。跡なるチヤン〳〵が意苦地なし。先なるお芹子が云ふとにや。始めて軍に出た時ハ。日本の兵隊さんよ跡追はれ。すたこらさツさと逃げました。中なる豚尾の云ふとにや。さきの日金州の戰爭に。日本の兵士に手を切られ今だよ痛さに堪へられぬ。跡なるチヤン〳〵の云ふとよや。いつぞや豐嶋の海戰に日本の軍

艦ゑ沈められ。既でに命のあいところ。

○春雨

○國の爲め。どつさり上げる献金の。日ましに殖る嬉しさよ。車夫や人足藝娼妓。婦女子でさへも一筋に國を思ふの氣は一ツ。中ゑ華族や紳商等。むやみ矢鱈攻擊うけるとは。大縮尻じやないかいあサーサ献納したがよいわいな。

○春花

○春はかち。いざ見にごんせ北京城。勇氣爭ふ日本兵や勝てかて勝ち拔いて。將校も兵士も打つぞひ。一ツ本さしたるサーペル。豚料理の味かげん。急いで春ハ打連れて。帝國萬歳謠ふのみ。ヨイ〳〵ヨイヤサ。

○はれて通ふ

○まけて逃げるに何に嬉しかろ。今度も討たれ闇の夜道をヨロ〳〵と。先や一度でも敗けはせぬのゑ。こちや敗げつゝけ。山阪越へて逃げて行く。毎戰勝つたら嬉しかろサヽドウシテかたれぬとじややら自烈躰ヨ。

○雨の夜

○雨の夜もまた雪の夜もなんのその。敵の所在を只ひとり。思

ひは積る北京城。通ふ心も察さんせ。

○可愛く

○こわい〳〵がッイくせとなり。向ふへさし來る日本兵。今や來るかと待つ身はこわく。待たぬ砲發ドン〳〵と。

○忍ぶ夜

○忍ぶ夜は音さへ立てず。ひそやかゝ雪の姿やちら〳〵とつかそかゝ見ゆる篝火は。彼の支那軍の陣のうち。逢へば心の思ふ通り。やがて。凱陣。日本軍。

○色がある

○敵がある。承知で進む日本兵。打出すからには。どこまでも。戎て仕舞にやならぬぞへ。

○敵が居る。承知で攻めた旅順口。こゝ取るからは飽までも。北京をとさゝやおかぬぞや。

○敵が居る。承知で向ふ斥候も。踏出すからは飽までも。勝つて貰はにやあらぬぞや。

○翁ぐさ

歌澤節家祖　芝金調

○あれごらんせよ。もみぢ葉を。はや散り初るからにしき。それにはまさる花ぞろひ。かほりゆかしく。散りもせず。ほんゝ

嬉しい。おきあぐさ。

○松づくし　二上り

○笑ひはやせや清兵を。一敗目よは覽り腰。二敗目には逃仕度。三敗目には先きを競り。四敗目よゝ尻に帆よ。五敗目よゝ伍を乱す。六ッ往昔の軍畧や。韓信出來ず項羽あし。七敗目よは逡巡行く。八敗目には這ひつ伏す。九ッ降辭を直ならべ。十で遠くへのがれ待つ。此醜体は不雪の恥にて。力蟻にも劣るとかや。日を待つ。時待つ。媾和待つ。連利の皇國よ怯氣を懐く。老大國を見いさいな。

○討やおかせやとんび國。日本國には義のいくさ。日本名譽かゝやかし。參謀本部くり出して。支那の艦隊打沈め。御本營は五師團よ。うつし廣島は賑ひておいく戰地へくり出します。日の丸御旗を飜へし破竹の勢ひて牙山拔く。茲に野津大同江打渡り。とふど平壤打おとし。此先きは支那の領地へ進み進んで勝をとる。李鴻章もなげく。敗軍の清またする軍さも日本かち。日にかち。時にかち。九連も落ち。先軍を進めて。旅順も越して北京までも吾が勝利。

○淀の車

○人目厭ふて裏道まわる。知らず日兵に氣がもめる。ほんに遣瀬がないわいな。

○十日ゑびす

○東洋日本の強兵は。海軍と陸軍一致して小銃に大砲れつそろへ。打立てきり立て。戰ひに支那勢はあわてゝ逃げて行く。

○さーて勝利の高名品。旗鉾に天幕ぐんかん船火藥よ大砲鉄砲あまた。しろ銀黄金に通用錢。麥米粟に沙幕まで打捨。支那兵は逃げて行く。

○女屋呂場の入こみは。糠ふくろにあかすり湯手拭。婆さん姉さん嬶衆立うめまを熱い好き焚します。お肩を流してヨイ氣味さ。

○男風呂場の入こみは。がたつくのに仇口そゝり歌。爺さんに散髪さんに小生だち。洒落まを饒舌ますさわがしく。お手を叩て流しよぶ。

○豚尾日本と戰へば。金袋も取られて錢もなし。勝たんと出て來りや敗どほし。あんまり敗北に顔わ出ず。彼方此方隱れて逃げて行く。

○夕ぐれ

○軍するたび敗行く支那の兵。音に聞へし草河口。何の苦もなく落にけり。アレまた敗た。とてもかなはぬ此いくさ。早く止めたがよいわいな。

○越後獅子

○チヤン〳〵弱いチー。鐵砲は持てども。やくには立たぬ。「ウツナ〳〵、御免なさい「泣いて降伏して生捕れ。平壤は落され。鴨緑江渡る九連城を破られて。進め〳〵の號令に。隊長參りましよ。奉天府を指して。日本兵は。いさましく。

○むつとして

○吶喊としてかゝれば顔も青ざめやこもりし巣も我さきに又逃げて行く敵の影さらばしどろにしてくれう。

○綱は上意

○支那は兵士を操り出して牡丹臺をぞまもりける。をりしも我兵はげしく進みより。かなたの城をぞ取りかこみ。燒き落さんとドウと討つ。支那は聞へし弱虫にて。かの口もとに白旗を立て。よしやれゆるしやれ壘がおちる。壘おちるいとひはせぬが。タツタ一ツの命毛が損じるは。サテなくなるゝ。なにも捨懼にげねばならぬ。そこで討んすがてちや氣にかゝる。慈悲じ

や〳〵。豚ぢやもの。鐵砲も兵粮もなつちもいらない。サッサおいてけ〳〵。

○羽織たゝんで

○耻を忍んで支那兵が。どうして我身がかてようと。言ひつゝ逃ぐる豚尾漢。アレ見やしやんせよわいこと。

○更て逢ふ夜

○敗けて追はるゝ氣苦勞は。てきの目かすめて落るさき。互ひに見あはす青い顔。手に持つ軍器なげいだし。じつに勝つせがないわいな。

○我戀

○宮じまの明神さまの。お告げにゝ必らずチヤン〳〵打て取れ。殘しちや。御國の邪魔となる。

○廻る車

○すゝむ我兵はさて。はやいもの旅順口拔けて奉天府。進め〳〵北京城。コレサ。チヤン〳〵みんなべけよ。

○越後の國

○支那の國の豚尾兵。國を出る時や。大威張り。攻めて向つてチヨイト擊ちや直ぐに降ります。李爺は眞面目で法螺を吹く。

○忍ぶ戀路

○支那の兵士の。さて果敢なさよ。今度出るのが命がけ。可愛女房に泣きわかれ。その顔かくす未練もの。

○戰ふいくさは扨心配よ。今度逢ふのが命がけ。涙によごす軍服の。其顔かくを支那の兵。

○支那をやぶるはサテ易いもの。こんど擊つのは。北京城。破れて遁げる平壤の。其態をかし支那の兵。

○勝・軍（新調）

櫻痴居士作

○ところ千代まさ。常盤のいろに。枝もさかゆる嶺の松。源清き小糸の瀧ハ。富士の白雪あさひに解けてとけて流れて忍ぶ川。しのぶが岡の賑ひは。御旗を祝ふかち軍。歌に拍子もいさましく。合打てやうて〳〵。筒先揃ろへて。向かふかたきは唐國ゑびす。城も砦もあらばこそ。船も臺場も打ち碎き。勝ほこりたる捷ちいくさ。わが日の本のほまれぞや。風にひらめく紅の。旭日の御旗を知らぬいか。合殘るくま無く打なびけ。天の下しる時の風。いきほひ四方にかゝやきて。歸り來ませよますらをと。凱旋門のかちどきを。壽ぎてこそまつの風。

あさくとも

○小さくとも強き日本の勝いくさ。飛んだ數多の敵兵を。殺して見たり珠數つなぎ。國の譽れぢやないかいな。

○細くとも強き日本の腕のさき。飛んで攻め入る北京城。瞬くうちに皆ごろし。ほんに愉快じやあいかいな。

日清萬ざい

○德は寛仁。御萬歲と御代も榮へます。戰捷ありける新玉の。年立ち復る朝より。兵も若やぎ立ち榮へけるは。誠に目出度う候ひける。合軍の司は山縣どの。折柄帝ハ廣島本營。王は皇大神の御末。萬やも〳〵。浦安の國よ十一月三日。寅の一天に。誕生ゆましまします。大元帥。秋津洲繁昌。守らせ給ふ。實に目出度う候ひける。野戰々々京城の後の野戰。討たる敵は何所々々。成歡牙山。不時の大勝。平壤義州。分奪よ〳〵九連鳳凰。金州旅順。奉天徽塵と追たる兵ハ野戰。其所を打ち過ぎ黃海の役見たれば靖遠致遠。被害火入り船。ドン〳〵火入り船火入り船。術手術。超勇揚威。來遠定遠いろ〳〵立派に。撃ち沈め

て候ひしが。町々の小處女やお年の老たる嫗輩迄。喜ぶ有様は。實にも勝利の時あり御代あり。惠方の御倉庫にずつしり〳〵償金納まる。支那にハ連敗。日本の連勝。其方も此方も幾年の壽と。祝ひおさめて萬々歳。誠よ芽出たう候ひける。

大勝利節

（紅葉館新作）

○光り輝く。日のもとの御旗は高く。昇りつゝ。先づ豊島に船いくさ。天地も崩る。砲聲に。幾千支那の。つわものを。船もろともに。打沈め。捕獲したるも。あるぞかし。陸のたゝかひ。成歡に。牙山平壤。これもまた。支那負した。勝いくさ。負てあわてる。支那兵の。啼や叫や。修羅ちまた。命惜さよ。手を合せ。おがむもあわれ。活おけと。國の譽れの。情ある。大和心の。凱歌を。あげてぞよめく。いきほひに。奉天北京。乘とつて。日の丸御旗の。東風よ。支那も印度も。伏なびきて。猶萬歳を。祝すなり。

二上り「逆巻く涙の外かすみ隔つる國までも光り耀く勢ひ。みいづ我ますらをの彌猛心向ふ敵のあるべきぞ帝國萬歳〳〵旭の御旗。

仝「君の恵みを戴きて國の光りを肩にきて我を先途と馳進み敵の城々續けて落し敵の船々微塵に碎き勝ちに勝つたる勝いくさ帝國萬歳〳〵。

仝「旭の御旗世にたぐひなき日の本は忠義一ッが魂ぞ童少女に至るまで君の爲おら命を捨よ國の爲めなら身を惜むなよ。旭に匂ふ山櫻帝國萬歳旭の御旗。

○○○○○○○○○○
○　薩摩武士踊替唄　○
○○○○○○○○○○

（滿州兵遁走）

○身ども滿州吉林で。鬼をあざむく減駄兵。馬術自慢を鼻にかけ。泊り込んだる九連城。夜明けの風に。目が覺めて東の方を眺めつゝ。オヤ〳〵〳〵大變だ。日本勢が押寄せて。列べ立てたる大砲に。朝日輝く日の御旗。鴨綠江の川水に響く喇叭の身にしみて。コリヤ〳〵堪らぬ大變ぢや。我身が茲で死んだ迚命知らずの馬鹿者と。手柄ゝ李爺奴にせしめられ。國に殘せし女房は。サゾヤ戀しく思ふだろ。それ兵法の奥の手ゝ。逃るが勝ぢやと申すなり。國の爲め迚何のその。命あつての物種と。始めの勢ひどこへやら。エッサッサ〳〵千鳥足チッチッチヤン〳〵。チッチッチヤン〳〵濱邊傳ひに逃げて行く。

○都々逸

○はなす小筒の煙より輕い君に捧げた此いのち
○逢へる果報に寐て待つ耳に嬉しい軍の勝だより
○主が從軍するなら何んの女ながらも看病婦
○菊と罌粟とが互ひに色香競ふ亞細亞の百花園
○人いものいふ花櫻木の譬れ見せたるよしの艦
○いつそ斯なりや身を投出して敗けて仕舞が李鴻章
○堂やら今宵は黄菊と思や嬉しい馨りの先きだより

○勢ひ朝日の御旗の風に脆くも散たる芥子坊主
○祝ふ首途にや泣ぬ昔しや悪留したわしも
○名殘惜しくも御國の爲めと思や嬉しい鹿島立
○流石日の本四方に薫る手入自慢の御代の菊
○早く尾を捲き降參ん支那みんな清鱈誥るまい
○幾度負けても懲りぞよ負る李鴻章でも愚な軍さ
○時事の報知を日々聞て毎日朝野の物おもひ
○先がさう出りや此方も意氣地五分でも引ない覺悟をる
○人の意見はナニ聞くものか斯ありや意氣地を立通す

○聞たびに變つた話し計りなり昨日平壤今日奉天府
○聞たびに變た話しばかりなりとうど北京攻落したり
○さとう大佐と知ずに敵はあまく見たので負け軍
○人にやそれとも鰯のあたま信心するのもぬしの爲
○出して見る毎思ひが增して寫眞い涙で汚點だらけ
○女ながらも郎君の女房赤練に首途をとめいせぬ
○首尾を案じて新聞見れば又も○○で腹がたつ
○つらい別れも御國のためと泣く〳〵見送る後かげ
○軍する人夫に持てば心のやるせまるひまいない
○可愛いお方い兵士の勤め喇叭あるたび氣にかゝる
○主の便りと此號外はいつも首尾よい事ばかり
○末も頼母し乘込む主の艦も千代田と云ふからは
○嘘と白旗眞實と聞けば憎くや隙見て逃げ支度
○藪を突て出したる蛇に捲れて動ぬ支那のざま
○敵は怖れて混成旅團すゝみ易さの支那の土地
○赤い心のない支那兵い黑船とられて白いはた
○今更降參支那けりや成ぬ先の仁義に攻られて
○朝鮮獨りで立ない唐い力に頼むは日本杖

○妾しやお前を松崎大尉お顔見られぬ口惜しさ
○泣いて送つた昔にかえて笑貌で並べるぬしの靴
○陸ぢや追れる海では沈む支那ぞ止むまい此苦勞
○名前並べて出る献金はむかしかゝれた新聞紙
○ぬしと二人の軍機を洩る記事も○○で消させたい
○私生なりとて此兒は和製チヤン〳〵種より遙か優し
○主の無事をば清正公よねがふ異國の勝いくさ
○國の爲とて從軍ねがひ何うか手柄を支那の海
○力なく〳〵涙で主を送る未練のはれまぶた
○花も美事よ馨りも高し支那へ廣げる菊畑
○陸じや浮足海でゝ沈む負る軍は止よ支那
○今ぞ凱旋武名と共に輝く北京の日章旗
○島田崩して束髪結ふて看護婦志願も主しの爲
○芥子の畑を堀くつがへし跡へ植込む菊の苗
○出師兵士の辛苦を思や今朝の寒さも何のその
○疵を受れば阿片の種の脂を吹出す芥子坊主
○紳士紳商心ろに耻よ車夫でも義献の金を出す
○敵の彈丸きに負ふものぞ切ツて彼等の首を負ふ

○今朝の寒が身に染むからに戰地の夫が案事らる
○今朝の寒さよ膽さへ冷る戰地の電報血の煙り
○便り待身にや何より嬉し首尾よく落した威海衛
○はやく北京を落城させて上て見たいよ日の御旗
○日本の刀よ切立てられて今更なんだの降參使
○てきも味方もあさけの區別あいが心の赤十字
○仇よ情けの張ふだよませ心とかせた新領地
○あつい寒いと云はれた義理か露營張る身を思ては
○連戰連勝こゝまで來れば最早手に入る北京城
○最早北京の城危しとあはてゝよこした媾和使者

文句入都々逸

○軍はじめて一度も勝たず
　廿四孝「李鴻章とて幼氣の無理な戰ひぜぬものを頼みに思ふ
　旅順口護衛の力もなくなれば可愛やたつた一擊に
　〃　ドゝ一「北京の城まで毀される
○鐵砲かついで行く手にすがり
　太功記十段目「悲しさ隱せど笑ひ顔隨分お手柄功名して

ドゞ一「主しの歸國を待つわいな
○國の爲といそりや其顔で
安達ヶ原三段目「はぢも慮外もかへりみず
ドゞ一「逃行く弱虫や豚尾漢
○平壤陷され逃たる兵を
毛谷村「雨露雪の深山路や野末にあまる一ッ家に若しや隱れて居やうかと
ドゞ一「尋ねるからゆい何處までも
○雨や霰れと降る彈丸も
千兩幟「夫にけがのないようにと祈る神樣ほとけさま
ドゞ一「厭はぬお前の日本魂
○北京城下のちかひもさせて
千兩幟「留守は猶さら女氣の獨りくよ〳〵物案事
ドゞ一「手柄ばなしを待つわいな
○思ふお方はいくさの首途
鏡山「影見ゆるまで見送りて堪へ〳〵し胸のうち思はずワット伏沈み
ドゞ一「惜しむ別れも妻の情

○お名殘惜しいが御國のお爲

大閤記十段目「あつぱれ功名てがらして

ドゝ一「無事の歸朝を待つはいな

○焦るゝ胸をばさすつておさへ

「何日平二胡虜一。良人罷二遠征一。

ドゝ一「ぬしの歸へりをまつばかり

○思ひ込んだる男兒の意氣地

「從レ是二千三百里。北辰直下建二銅標一。

ドゝ一「雪に屍骸を埋むとも

○思ひ合ふたる二人のこゝろ

「與レ君相伺轉相親。與レ君双棲共二一身一

ドゝ一「かたい條約とりかはす

○勢ひ朝日の御旗の風に

「清軍不レ覺レ曉。處々聞二啼鳥一。

ドゝ一「脆くも散つたる芥子坊主

○早く尾を捲き降參ゝ支那

「倭來砲雨聲。皆落死多少。

ドゝ一「みんな清鱈つまるまい

○北京の氷も旭に逢ふちや

「武人不二相識一。動作爲二金錢一。

ドヾ一「解けて世界へ流す耻

○ひけを俘虜になる豚尾漢

「莫二漫　愁一喰レ臂。船中自有レ連。

ドヾ一「おがむはやつらが本願寺

トコトンヤレ節　宮さん〳〵替唄

○皆さん〳〵今度の戰爭は献金するのは何んじやいな。アレー

は征清兵士の慰勞のお金と知ないか。トコトンヤレトンヤレナ

○野津さん〳〵お馬の上で號令するのいあんじやいな。アレー

は清國征伐するとの武勇の譽れを知らあいか。トコトンヤレト

ンヤレナ

○海の荒いのは大砲の音のドン〳〵と鳴るのはなんじやいな。

アレーハ支那艦沈沒させたる日本の御艦と知らないか。トコト

ンヤレトンヤレナ

○皆さん〳〵軍隊の前にペコ〳〵お辭義は何ぢやいな。あれは

降參のちやんちやんが助命を願ふを知らあいか。トコトンヤレ

トンヤレナ

○皆さん〳〵敵軍の中に閃光るは何ぢやいナ。あれハ味方の兵士が抜刀で進むを知らないか。トコトンヤレトンヤレナ

○皆さん〳〵豐島沖でブク〳〵沈むは何ぢやいな。あれは清國兵士の運送船をば知らないか。トコトンヤレトンヤレナ

○皆さん〳〵渤海灣でドンと撃つのは何ぢやいな。あれは日本軍艦進撃したのを知らないか。トコトンヤレトンヤレナ

○豚さん〳〵お前のまへにしろ〳〵するのハ何んじやいな。あれを知らあいか。那れは清國艦隊敗北降參の白旗知らないか。

トコトンヤレトンヤレナ

ギッチョン〳〵

○遠く進むといふ名もまことギッチョンチョン〳〵十萬億土へ沈められ。オヤマカドッコイ〳〵。チヤン〳〵。ヤウイヤサ。

ギッチョンチョン〳〵

○ぬしは日本わたしは支那よギッチョンチョン〳〵何につけても負け通し。オヤマカドッコイ〳〵。チヤン〳〵。ヤウイヤサ。

ギッチョン〳〵

○敵を松島時刻もよしのギッチョンチョン〳〵早く勝負を支那の海。オヤマカドッコイ〳〵。チヤン〳〵。ヤウイヤサ。ギッチョン〳〵

○一ト山三文安物アそんよギッチョンチョン〳〵韓でほき出すあの慈姑。オヤマカドッコイ〳〵。チヤン〳〵。ヤウイヤサ。ギッチョンチョン〳〵

○やがて北京で迎へる年よギッチョンチョン〳〵立る御旗の初日の出。オヤマカドッコイ〳〵。チヤン〳〵。ヤウイヤサ。ギッチョンチョン〳〵

○北京〳〵とへし折るつもりギッチョン〳〵なまくら刀金の鎗ふすま。オヤマカドッコイ〳〵。チヤン〳〵。ヤウイヤサ。ギッチョンチョン〳〵

○豚を切るにい刃物はいらぬ。ギッチョン〳〵ギッチョン〳〵。見せりや膽きる日本膽オヤまた臭怯に逃出す。チヤン〳〵ヤウイヤサギッチョン〳〵〳〵。

○海ぢや生捕る牙山いおちるギッチョン〳〵〳〵行途敵なく勝ばかりオヤまた分捕車に積みのせ。チヤン〳〵ヤウイヤサギッチョン〳〵〳〵。

○蔓の水瓜を北京でもらいギッチョン〳〵〳〵つなぎ合せて國土産オヤまたこゝよもコロ〳〵落てる。チヤン〳〵ヤウイヤサギッチョン〳〵〳〵。

ほうかい節

○成獣の。清國兵士い何故弱い。日本を怖れて逃出す。ホウカイ。その筈士官の號令は。駈足逃げろ。

○清國の。袁世凱は臆怯者。大鳥公使を恐れます。ホウカイ。其くせ内証でから威張り。傲慢無禮。

○一時も早く詫びせよ國のため。魔姑つきや明日にも北京までホウカイ。取られてコノ身の居所あし。險難〳〵。

喃江節

○萬里の長城ノーエ。萬里の長城ノーエ。萬里のさい〳〵長城難あく破り。一里半ゆきやノーエ。一里半ゆきやノーエ。一里さいさい半ゆきや北京城。おッぴきしやらりこノーエ。れッぴきしやらりこノーエ。ちいちがたい〳〵。とゝちゝ。おッぴきしやらりこノーエ。

○仁川港からノーエ。仁川港からノーエ。仁川さい〳〵港から。軍艦見れば。旭日に輝くノーエ。旭日よ輝くノーエ。旭日にさい〳〵輝く日の御旗。おッぴきしやらりこノーエ。おッぴきしやらりこノーエ。ちいちがたい〳〵。とゝちゝ。おッぴきしやらりこノーエ。

○四千万人ノーエ。四千万人ノーエ四千さい〳〵萬人一致で居れば四百さい〳〵ノーエ。四百さい〳〵餘洲もなんのその。おッぴきしやらりこ。ノーエ〳〵。チイチガタイ〳〵トゝチゝおッぴきしやらりこノーエ。

○罪を作りよノーエ罪をつくりにノーエ罪をさい〳〵作りに水雷艇は水に姿をノーエ水よさい〳〵姿を忍び行く。おッぴきしやらりこノーエ。（以下同じ）

ゑんかいな節

○國の爲には身命も投打つ。日本の愛國者。渡る朝鮮支那の國。乘ッ取る北京の城かいな。

○夜の夜中も軍人は。道に斥候風紀衛。箙を焚いて嚴重よ。張るは哨兵線かいな。

○豐島沖には浪速艦。向ふ清艦打拂ひ。操江號をば擒よし。沈めた運送船かいな。

○成歡攻めるその時に。軍功一の松崎氏。多くの兵を指揮しつゝ。渡る安城川かいな。

○勝てば勝つほど勇み立ち。飽まで貫く大和膽。敵を目がけて何處までも。進む日本の軍かいな。

○目算外れた李鴻章。數度の戰爭みな負けて。小田原評議も區〻に。もめる內輪の論かいな。

○軍する度へコたれて。命からく逃げてゆく。ちやん〳〵坊主の意氣地なし。偶にゝ勝ても見んかいな。

○支那の兵士の扮裝ゝ。野蠻極まる昔風。タブ〳〵したる着物きて。胸に大きな紋かいな。

○支那の弱武者ブル〳〵と。震へながらに手向ひて。筒音聞けば吃驚し。突いた尻餅どんかいな。

○攻るたび毎戰はず。恥も世間も打捨て。逃るが巧手の支那兵はアレが軍の傳かいな。

○軍するたび勝つゝけ。弱い敵のチヤン〳〵を。追つて乘取る北京城。アレが日本の軍かいな。

○昇る朝日の旗風に。なびく清國豚尾漢。四百餘州も我物とする。は。糊作もあいかいな。

○威海旅順の砲台もやがて難なく。打敗り進んで攻める海軍が。乘ッ取る渤海灣かいな。

○忠實勇武の有衆よ示す詔勅。就中て慈愛のこもれる難有さ。是れも御國の恩かいな。

○時さへ安藝の廣しまゴ匂ふ。黄菊の光りをば受ける國民我が。ちに納める軍用金かいな。

○神功皇后豐臣氏。おかし討たる朝鮮ハ。今度日本ゴ從ふも。素より續いた縁かいな。

○金氏をほろぼし先よしと。思ふ惡事の露顯して。遂に自ら遠島に。あつたは閔泳駿かいな。

愉快節

○鴻の臺から。四方の景色を眺望すれば。悲風慘憺雲漠々。召集點呼の濟んだ後。品川乘出す吾妻艦。日清談判破裂して。西鄕死するも彼奴が爲め。大久保殺すも彼奴が爲め。遺恨重なる。チヤンゝ坊主。日本男子の村田銃。筒の尖頭へと劍つけて。

なんおく支那人打倒し。萬里の長城乗越えて。一里半往きや北京城。愉快々々。

やッつけろ節

○豚めが無禮をした時にや。その時や遠慮は要らないよ。激しい攻撃。ソラ。やッつけろー。

○赤髯めが半可通をば言ふ時よや。その時や遠慮い要らないよ。手酷い喧嘩を。ソラ。やッつけろー。

○日本の正義を邪魔する時にや。その時や遠慮い要らないよ。兵力談判を。ソラ。やッつけろー。

大津繪

變歌大つよ武士

○暗の夜に成歡近く。勇んで繰出す日本兵。黑けぶり。飛出す鐵砲丸。大筒小筒を打續け。支那兵營では亂痴氣騒ぎ。大將軍は深く隱れて呆れ顏。中ゴも負癖附いた弱虫唐人い。首を抱えて豚の尻尾くるくる捲いて。浮雲〳〵險呑だいと。牙山も捨て。備へし大砲。みな〳〵置いて歸りゆく。

○オーイ〳〵。ワアジーどの。其の船こちらへ渡してお呉れ。

ガルスワアシーは吃驚仰天し。イヤ〳〵加勢ではござりませぬ。運送に貸して遣つた用意の英吉利船。ヤレ〳〵失敬なチヤメ〳〵めと撃ち放し。何の苦もなく一沈め。命と船との本意ない別れの破裂彈。

○成歡を立ち退て。私の姿が眼に立たば。商人に身を扮し。腹が張らねば身は持てぬ。乞食山賊に日を暮し。僅か計の兵粮も喰ひ果して水を呑む。何より大事お軍旗まで。敵軍に取られたも皆んお私しゆゑ。さぞやお笑らひも御座りましよが。是も臆病故ぢやと憫み下さんせ。

○オーイ〳〵。李爺どの。其の國此方へ渡してしまへ。李鴻章喫驚仰天し。否々たいでは渡しません。無理やりに。從ふた弱虫の道げ兵士。そろ〳〵軍をおされませ。ヤレしぶとい李爺メと。海陸が何んの苦もおく。追落し。旭の丸國旗を。北京城の上に樹て。日本大勝利。

○オーイ〳〵。李鴻章其城てちらへよこしやがれ。李鴻章はびつくり仰天し。イエ〳〵金おらあげますが。愛親覺羅の。攻取た。大事の北京城。どれ〳〵防禦にかゝりましよ。サツテもしぶとひ李鴻章め。攻め圍み。何の苦もおく一いくさ。北京と金

とは同く我物二ツ共。

○オーイ〳〵丁汝昌。其艦こつち〳〵寄て呉れ。丁汝昌は吃驚仰天し。イエ〳〵其手は喰ひません。李鴻章が云ふて呉れた用意の逃仕度。彼方へサッサと參じませう。ヤレ〳〵虚弱い汝昌奴と打放し。何んの苦もなく打沈め。命と艦との敢ない最期の艦いくさ。

義太夫さわり

三勝半七　酒屋のだん

○今頃は李鴻章。どんな考してるやら。今更かへらぬ事ながら。

衰世凱がないおらば。朝鮮國も日本よまかし。此迄きばつた大鳥殿。とくにも御任せさゝんしたら朝鮮國の政府もなをり。御關係もわるまいに。思へば〳〵李鴻章。去年の夏の騒動に。牙山へ上陸やめたおら。こふした戰にあるまいもの。お氣に入らぬと知りながら自から條約破たゆへ。藩屏いかなはずとも。手元に引ふと辛苦して。兵隊出したがお身のあだ今の思にくらぶれば。出陣前に此事が。知れる心がつかなんだ。こらへてたべ日本軍。わしや此樣に思て居るに。恨みつらみい打捨て。なを一入に無事祈る。

おッぺけぺー節

○百や二百はかへつて邪魔だ。揃つて來れば珠數繋ぎ。おッぺけぺ。おッぺけぺッぽーぺッぽー。頭は豚尾の野蠻國。日本の義俠を仇よなし。天津條約打捨て。朝鮮獨立妨ぐる。傲慢不遜の豚尾國は。開明進歩の邪魔をする。東洋平和の公敵だ。無暗よ半國々々と。風俗には似合はぬ法螺吹いて。いくさがはじまりや眞先に。腰を抜して逃出す。破廉耻極まる意氣地なし。早く降參するがよい。愚圖々々して居りや滅亡だ。其時や泣いても遂付かヂー。若も不の字を吐すなら。日本男兒の膽見せて。遠慮は要らナイやッつけろー。オッぺケぺッポーペッポッポー。

○女あがらも御國の爲と。此頃夜なべの綿撒絲おッぺけぺ。おッぺけぺッぽーぺッぽー。御國の大事をひかえて。浮化〳〵暮しちや居られない。矢鱈にお尻を撫でまわし。俳優に惚けるひまがありや。學問手習ひ肝要だ。旦那よ内証の臍栗が。あるなら献金するがよい。戰ひ開けた曉に。戰地で看護婦必要だ。國のお爲だ出かけなさい。お絹布ぐるみで暮しても。國民の義務を知らなけりや。皇國の名折だ氣をつけろー。オッぺ

ケベッポーベッポッポー。

清軍歌

國の恥辱になるとても、
日本の兵と見たならば、
たとへ大勢居たとこが、
いよ〳〵迫るその時は、
降れや〳〵われがちに、
うたれぬうちゑ降る可し』

いのちあつての物種ぞ、
尻尾をまいて逃る可し。
已惚れ起しいくさすな、
鐵砲投げてくだる可し。

斥候の兵に出逢ふても、
惟幕ゑありて花あいせ、
渾家の寫眞とお手當の、
兵糧ばかりウンと喰ひ、
走れや〳〵われがちに、
怪我せぬかたに走る可し』

手出をあさば討ろゝぞ、
夫のみ勝をはかる可し。
金をしつかり肌につけ、
いざと言たら走る可し。

味方の首をひろひ取り、
間者の坊主を斬たりと、
自國の弱いたびゝとを、

あたまを剃て敵ぐんの、
誇りて褒美を貰ふ可し。
怖して旅費うばひ取り、

是も間者といつはりて、　二重に金をねだる可し。
ねだれや〳〵我がちに、
手當り任せよ貯蓄る可し』
日本の兵いみなつよし、　日本の海はみなあらし、
防ぐに難くせむるにも、　所詮行ぬとあきらめよ。
金といのちが有ならば、　女を連れてこつそりと、
老せず死ぬくにたづね、　船をぬすみて渡る可し。
渡れや〳〵われがちに、
あと先みづよわたる可し』

權兵衛が種蒔

○豚兵が又向や。日本が勝利する。千度に一度も勝つ事出來ない（閉口だ〳〵）向ふの山手の。大砲の小蔭に。日本の兵士が出て來て覗する。何かは捨置き。逃ずばなるまい。（閉口だ〳〵）

○豚尾の隊兵。皇國旗に向へど。散砲で一同が逃ずばなるまい豚尾等〳〵。

○日本兵が撃込む。豚尾は逃出す。千度に一度も敗ては居らない御手柄〳〵。

支那節

樋兵衛節

○朝日輝く日の丸の。その威光。到る所に敵はなし。コノちやん〳〵坊主。

○愉快極る勝いくさ。日の御旗。照し輝く北京城。コノちやん〳〵坊主。

○始末におへない野蠻人。無我夢中。命取られるのも知らず。コノちやん〳〵坊主。

○卑怯な大將弱い兵。耻さらし。末世末代笑ひぐさ。コノちやん〳〵坊主。

○攻め取る奉天北京城。この上は。最早降參の外はなし。コノちやん〳〵坊主。

○數十年來傲慢の。大天狗。鼻をひしいだ心地よさ。コノちやん〳〵坊主。

○英國露國へ仲裁を。手を合し。たのむ心ぞ不便なり。コノちやん〳〵坊主。

日清數へ歌

○一つとせ　卑怯未練のちやん〳〵は。金を欲しさに軍さをする。堂して勝りよう筈はない。

○二つとせ　吹くや十八番の大螺を。吹て恥かく化の皮。よい面の皮。

○三つとせ　見るも可笑しき其容貌ハ。水瓜や慈姑の化頭。叩きやブタ〳〵音がする。

○四つとせ　慾張り根性の耻知らず。心も小さき芥子坊師。道理で唐々音がする。

○五つとせ　幾ら説いても開かしても。結んだ頑固は解けやらぬ。頭の辮髪も其通り。

○六つとせ　無智で頑固で東洋の。開化の邪魔する銅羅太皷。叩きや頑鈍音がする。

○七つとせ　あんぽ軍勢は多くとも。頭に尻尾のある豚尾。それで後ろへ逃て行く。

○八つとせ　役にも立ない人夫等を。金で集めて兵とする。書いた兵とは此事よ。

○九つとせ　降参するのも最う直よ。そうなりや開化の國とある。又目も醒める。

○十とせ　とうどう北京も落城し。日本にビヨコビヨコ御辭儀をする。此弱虫等。

仙臺ぶし

○敗ても仕まへば褒美と定め今更イヤとは李鴻章サン。馬鹿にするにも法圖ある。旨々誑すも加減ある浮世にや人情の法途あるに。それにロハとは強慾な。明日にも北京を取らりようが。國王ドン〳〵逃げ出そが。コノ身の行末どう成らうが。是譯け立てなきやコレナンダイ働らかぬ。

○金州城をば攻るに就て。私しの好あい只一人。要心堅固の永安門。衝けども破れぬ其時に現れ出でし小野口氏。砲烟彈丸頻りにて。雨や霰れと降るリ〳〵。殊更危險の爆烈彈を抱きつゝ。門内近く進み行く。咄嗟と諦視そのうちに。實に凄まじく天地をも崩さ音して永安門。碎けて裂れをコレナンダイ輝やかす。

○支那の方から擊かけ置いて。和睦を願ふは何の事。仲裁あろが謝罪が。陸の順路が遠かろが威海旅順が堅かろが。北京を突かねばコレナンダイ免しやせぬ。

○臆病赤練は素より覺悟。今さら逃げるが可笑いが。親が討れ

ようが子が死のが。李鴻章親分が怒らふが。生命あづてのコレナンダイ物種だ。（支那兵の心）

名古屋甚句

○今度此たび日清事件に就て子ー。事の起りは金玉均。東學黨はなんのその。馬鹿を見たのが洪鍾宇。幸ひ日本の義俠心。入らざるお世話に李鴻章。遂に談判破裂して。西郷死するも之れが爲め。大久保死するも之れが爲め。遺恨重なる豚尾坊主。勇氣に餘りし我兵の連戰連勝知れたこと。滿州取ろか臺灣か。それを取るのは易けれど。義氣に悖らぬ我が兵の。劒の切れ味村田銃。四百餘洲を蹂躙し。北京城下にお辭義させ。日本萬歳連呼して。此れから踏出す歐羅巴。古今無双の強國と。云ふて貰らはにやノホヽイエヽ止めいせぬ。

○今度此たび征清事件に就て子ー。あまた師團のある中で第一軍の五師團は。野津大將を始とし。大島立見の兩少將。堅固無類の平壤を。難無く爰に陷略し。九連城に鳳凰城。盛京省を蹂躙し。奉天府にぞ進むなる。殊に二軍の一師團花園口に上陸し。金洲城を落し入れ。つゞいて攻する旅順口。其戰ひの有樣は。

古今無双の激戰で。進んで打取る黄金山。敵い散々逃げにけり。
また〳〵日間に日章旗。渤海灣にぞひるがへる。是ぞ東洋日本萬歳。

○今度此度出師に就いてチー。數多士官のあるなかで。君への忠義い色變へぬ。松崎大尉い勇ましく。眞先かけて奮闘し。栗毛の馬よと打乘りて。サーベル扱いておさしづさ。折から打出す彈丸に。肝心要めの乳の下。うたれし斗りが原因となり。あへなく果てし御最期。如何にもこれが口惜しく。支那の國へと赴いて。ちやんちやん坊主を斬盡し。北京の城を破らるきや。

積もる怨みがノーホ、エ、。晴れぬチー。

金來々節

○止せばよいのよ人數を恃み。正義に逆ふ馬鹿野郎。
きびす。かん〳〵。打ち出す大砲。ぐんかん沈んで水の泡。
ちやんちやんぶく〳〵。西瓜を浮べた。大べら棒の往き止
まり阿房らしいじやあまへんか。

○豚を買ふなら牙山が本場。肉は鹿の子で値が廉い。
目方たんと。意外の廉價。切賣おろしも。たくさんに。皆

さんどん〳〵。買はんかいな。大安賣の。金かんばん。

○平壤へ。三手よ別れて進擊すれば。何の苦もなく落城す。

進メドン〳〵。日本師團の勇兵士。數千万人海陸軍で。豚尾漢〳〵〳〵を追ッぱらふ。愉快ぢやおまへんか。

○平壤の支那兵が敗ければ北京も直に。攻めて取られる敗軍。

キタソ。日本。意外。ドント。榴散彈の大鐵砲。ちやん〳〵〳〵

まご〳〵逃げたいワイノー。宿無アーシの風來々。氣の毒

ジヤおまへんか。

○黄海でいくさに敗けたら渤海灣の中に。逃げてかけ込む支那

の艦

守遠。鎮遠。威遠。經遠。平遠。致遠。廣甲。廣丙。六艦

の水雷々弱いものジヤおまへんか。

○金玉均氏暗殺されたが基ひとなつて。支那と日本と戰さする。

嚴しい談判。意外奔走。東學黨の沸騰で朝鮮萬々平和かい

な。大鳥公使の心配パイ。挨拶大事じやおまへんか。

○水雷火伏せて眺めりや算用が違ふて。味噌を附けたる豐島沖。

支那の軍艦牙山へ逃る。日本兵が追まくるチヤン〳〵兵の

間諜來の大べら棒の心配パイ。慌てゝ逃るぢやおまへんか。

○國王が愚痴を溢せば李鴻章も共に。懺悔顔して話し合ひ。
兵隊ドン〳〵意外驚天。明日にも北京を取られッぱ。負ぬ
氣バかりじや叶はんカイノウ。モーシ國王チャン。詫びし
ようじやおまへんか。

○日本刀抜けバ王散る氷の刃。四百餘洲を斬りまくる。
憎い戎。チャン〳〵遁走。全體豚尾の陳腐漢。日本萬歳愛
親覺羅の滅亡期の到來々。城下の盟ひぢやおまへんか。

○精鋭勇武の我軍隊が向ふ所に敵はない。
急にドン〳〵旅順落るチャン〳〵坊主はかなはんかいな。

大べら棒の意氣地なし。弱いものじやおまへんか。

○支那兵が弱り泣きすりや李鴻章も共に貰ひ泣する敗け軍。
斬られ逃げる。痛い頓首。牙山平壤拔取ッて。清國敗北適
はんかいの。大分捕の鎮臺だい。日本勝利ぢやおまへんか。

○國の爲め假令死骸は野に晒すとも恥は晒さぬ日本膽。
日々にドン〳〵。いかい戰爭近來稀なる大勝利。日本軍人
萬々歳で滅法界ヨエライ〳〵愉快ぢやおまへんか。

○金の爲めつどひ集まるアノ豚尾兵攻りや忽ち敗軍さ。
ぢきよドン〳〵いかい敗れ。金穀兵器も捨て逃げ。日本兵

には叶ひんかいな。大べら棒の意氣地なし。弱いものぢやおまへんか。

●……茶の子節……●

○會津取ろうか。若松取ろか朝の茶の子に二本松。
○北京衝かうか。天津衝こか。朝の茶の子に旅順口。

○城の番場○

○城の番場で。日和がようて兵士が喇叭吹く。俄ゑ號令諸隊進め。人民大勢喜び勇んで。見送る門出。負けて下さるナ。勝たいわいナ。

月琴曲譜窮憐漢

○ちやんちやん奴ェ。困窮ぢやん。閉口ぢやァ。すぐ。逃亡ウ。だん〳〵。敗イ。走ウ。相談。相談爲ウ。亂ずるさう。方々。騒乱爲ウ。天津。北京ぢやん。巳ア。降參ぢやア。チエ、ちやン。

勇壯浮世ぶし

○牙山の大捷

○「敷嶋の日本心を人若問はゞ。朝日に匂ふ櫻花。皇國の高誼を蔑視して。朝鮮獨立妨ぐる。「ちやん〳〵坊主を打倒し。東洋平和を保護せんと。義を見て勇む春駒の。首を敵に押向けて縱横無盡に斫捲る。忠勇無雙の軍隊が。「手練よ敵する者あらん。平常の傲慢何處へやら。輝く御旭旗よ尾を捲いて。恐れて逃出す黄龍旗。風に木葉の散る如く。「さても可憐の次第あり。是ぞ牙山の大捷と。世にも名高き勲功は。語り傳へて青史に載せ。「末の代迄も殘るべし。勇壯ぢやないかいあ。

○平壤の大捷

○「成歡や牙山豐嶋の手並に懲りず。音に聞えし平壤の。要害特んで循籠り。龍車に敵ふ蟷螂の。「命知らずの痴野郎。扨も勇武の我軍へ。城門目懸て突貫し。雨と降來る彈丸を。物共せずに奮闘し。東雲告ぐる鯨波の聲。「敵の夢をば打破り。數千人を殺傷し。敵將左寶貴斬殺し。牡丹臺をば乘取て。慈よ凱歌を唱へしい。「是ぞ御國の譽なり。勇壯ぢやないかいあ。

○海洋島の大捷

○「東洋に對ふ敵なき我海軍ハ。今ぞ名を揚ぐ時來り。日章國旗を飜へし。登る朝日ゑ香ばしく。「櫻と匂ふ吉野艦。常盤あすてふ松島や。君の惠みに大島號。赤城心を筑紫艦。「七重八重山打過て。樹て勳功を故郷に。「飾る錦の秋津洲。大和心も金剛の。堅き備の嚴島。整々堂々艦隊を。揃へて海上乘廻し。砲門開いて打出す。稲妻空に閃きて。轟く聲は雷か。敵艦忽ち沈沒し。「燒れしものゞ多かりき。されば戰ふ餘勢なく。渤海灣へ逃込むは。「いとも笑止の次第なり。進んで天津蹂破り。太沽砲臺粉

碎し。北京の城へ乘込んで。城下の盟を爲すならば。「是ぞ皇國の名譽なり。勇壯ぢやないかいな。

○伊豫ぶし○

○朝のもめから戰爭が起り。海にや海軍御出陣。支那の軍艦うち沈め。エーリやチヤン〳〵坊主が大騷ぎ燒けて死すやら。水死する陸には陸軍下知を爲し。平壤のぐるり取りまいて數萬の敵をば八方より狹み擊ち。

清編笑愕讀本

○兵士郎さん。あなたは。今度の戰爭よ。おいでに成りて。ちやん〳〵坊主の。首級を。凡そ幾個ほど。お取りに。ありましたか。ハイ。あの國の兵隊は。みんないくぢのない。腰ぬけ馬鹿りで。ありますから。此方の。根氣さへ續けば。首級は。いくらでも。望み次第よ。チョン切れます。私しは。大抵毎日。二三百人づゝ。チョン切りました。なるほど。夫れは。大そうお手柄で。ありました。さうして。其のチョン切ッた。首級は。

皆どうなさい。ましたか。ハイ。あなたも。御ぞんじの通り。彼の天窓よ。一ッ本づゝ。南瓜の。蔓のやうよ。長い尻尾が。ついて居ますから。其尻尾と。尻尾とを。擊ぎ合せて。片ッ端から。人足よ。かつがせました。オヤ。さうですか。夫れは。小首の宜い事で。ありました。

○彼の。ちやん〳〵坊主には。力が。ないと云ひますが。ナゼで。ありませう。それは。ふだんに。あぶらのない。南京米を。喰ッてませう。如何さま。夫ぢやア。滋養が。ありませんね。

○成獸や。牙山で。日本の兵に。滅茶〳〵に。まけて。滅茶〳〵

に。追ひまくられた。其ときの。大將で。葉志超と云ふ奴は。ヤット。命から〳〵。國もとへ。逃げて歸ッたので。清廷では。よくヤァ。逃げて歸つたとて。これに。褒美を遣たさうです。志超馬鹿にして居るでは。ありませぬか。

○彼のちやん〳〵坊主の。國も。ひかしは。孔子だの。孟子だの。と云ふ。聖人や。賢人の。あつた國で。ありまをが。世の中が。だん〳〵と。化變りて。いつの間にか。今のやうに。すりこぎ同樣。あとしざりをして。國の。政治向きも。滅茶〳〵乱脚に。味噌も。糞も。一所になり。それにつれて。人間も。カラキシ。埒口のあい。蛆虫の。寄合ひ見たやうに。ありました。この有樣で。もう二三十年も。續いたならば。ちやん〳〵坊主ハ。みんな。他所の國へ。出稼ぎをして。國は復た。昔し通り。カラにおるで。ありませう。

阿房陀羅經

○佛說—阿房陀羅經。そも〳〵氣まぐれ厄介道樂和尙が唱へあげますお經の文句。何がなによと尋ねて見たら。頃は明治の廿と七年水無月中浣。事の起りは東學黨で。續いて起つた日清戰

爭。豐阪のぼる旭日の御旗を眞先に。推立て進んだ勇氣に恐れて。腰を拔したちやんちやん坊主。水陸ふた手に別れて進んだ牙山豐島。ア、さん〳〵に打負けて分捕しられた品物が。日本に渡つて見世物に。相なりましたる大評判。ズドント打出す大砲よ。數百の豚が一時よ沈んで生死も知ずダヽブダブ〳〵。いくら口では大法螺吹きたて。鼻にかけたる李鴻章でも。ちよせん叶わぬ日本の勇氣。頭に生やした尻尾を捲いて。縮みあがつた心配最中。慘くも負けたる平壤の戰爭。四万餘人が茶茶苦無茶苦茶。是から先が北京の城下で。凱歌を唱ひまァる說經は後日のことといたしまして。茲に目出度く唱へ納めた日本勝利の御祈禱〳〵〳〵へイお喧しう。

○佛說阿房駄羅經。抑も段々支那と日本と。戰爭の行立て。聞いてもクヽチイ。朝鮮內亂閔族なんぞが。支那の公使と。密に謀つて。兵士を呼んだが。日本の腹立ち。天津條約違反の事から。騷動が始まり。大鳥公使が兵士を率ゐて。朝鮮談判。獨立するのか。政治の改革。二ッ一ッの手詰の催促。返答に因つて。王妃が泣出す。閔族逃げ出す。それよ續いて。豐嶋海戰。日本の軍艦。獲たり賢こし一ッも逃すな。漁船はブク〳〵。チヤン

〈ドブ〉操江は捕獲だ。廣乙は駈出す。淺瀬に乗揚げ。引くにや引かれぬ。進退谷まる。船体破はれる。全體怖がる。ニッチもサッチも。動きが出來ない。腰が抜けたか。艦長はグラック。船体ブラック。海でいやられる。牙山の戰爭ヤ。支那の太將葉と云ふ奴。逃げるが上手で。朝鮮藝妓の上着を冠つて。サッサと逃げ出す。大きに御苦勞。ヨウコソ逃げたよ。逃げと負るが。名譽の國だか。褒美貰ふて安樂世界だ。コンナことあら負るが專一。平壤なんぞは。三日も先きから。逃げる覺悟は致したけれども。貴の野郎が逃げるはイヤだと政府の意見に。

合はない許りに。勝氣よなつたが。了簡違ひだ。黄海々戰軍艦イカクテ。膽玉コックテ。支那の客將ハンヂッケンだか。片腕モガレル。丁の野奴は。大砲の怒鳴りて。聾になるやら。白旗立てるの。逃げるが善いだの。部の騒動。日本の軍艦樺山大將は。ニコ〈笑ひてコンナ海戰。朝飯前だよ。日本の技倆を示すよ及ばぬ。併し愉快だ。郵船會社の清水と云ふ人。海戰最中。寫眞を撮るやら。平氣ナもんだよ。開けたもんだよ。支那の軍艦種々の藝道。ナカ〈上手で。水中にモグッテ。鮑を取るのか。蛤取るのか。鯨の眞似して。鹽を吹いたり。水の中で

もポッポと燃へたり威海御苦勞だ。大きにお世話だ。海には樺山陸には野津。大山大將。旅順〳〵と。攻め込む軍勢。支那の運命晩いか。早いか。負けるよ違ひあい。狸親爺が了簡違ひだ。日本小國丸めて呑うと。飛んでもないこと思つて失策り。國王腹立ち羽織ゝ抜がされ。帽子は取られる。成程日本。國がコツクて膽玉イカクて。人間利巧で。戰さが上手だ。今度の戰爭は文野の戰ひ。日本の軍勢ゝ。支那の內地で演習の積りで。ドシドシやらかす。北京の天子も。ベソ〳〵泣ても。氣の毒ながら。日本へ寄留だ。先づは我天皇陸下萬歲陸軍萬歲海軍萬歲帝國萬歲支那の政府の運命も近きにあり。南無阿彌陀佛〳〵。

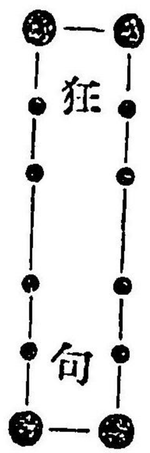
日清一ト口軍談

○時はいつなんめり。どう世う光緒の二十年。ちやん〳〵坊主の坊主頭。李鴻章と云へば一寸利口想に聞こゆれど。其實ゝ總領の甚六ウンテレ〳〵助凡突の隊長。豚の化物耄碌爺ゝ。止せば宜いのにどう戶惑したか何に寢ぼけたか。恐れ多くも今東洋に赫々と輝き渡りつる。大日本帝國に向ツて痩腕を揮廻さんとぞ爲したりける。斯くと聞くより大日本帝國の海陸軍は。已れ

小癪なチヤン〳〵坊主め。固より蟷螂の斧何ほどの事やある。鶏を割くに牛刀を用ゐずとは云へ。豚の料理するのも亦た一興なりと。今を日の出の大旗を文明の風に翻飜と吹き靡かせ。朝鮮八道の眞中へとこそは出陣爲したり。斯くてチヤン〳〵坊主の豚尾兵に於ては。此處が六道の辻とは知るや知らずや。元々めくら滅法向ふ見ずの事にしあれば。現在自分の首と胴とが別々になるまでは。大切の命がなくなるとは夢つゆ心ずかず。池しやア〳〵の呑湖の洒ア突く。ノコ〳〵サイ〳〵。例の天窓か尻ッ尾か甚だ不判然なるチヤン〳〵坊主めが。雪隱の蛆虫同

樣ウヨ〳〵〳〵と湧き出したり。其時の大將と云へるは。木葉の葉の字を頭に戴いた葉志超にて。之に續ける者共い。耳を三ッ附着て居ると云ふ。どうせ化物の緣い離れない羅士成を始めとして。頓珍漢。陳紛漢。素顚倒。大閉口。大失策。畜生明。素閑品。なんど何れも二束三文十把一束げの弱武者よて。扨もその扮裝を見てあれば凡槍を携へる者あり。無鐵砲を揮廻すものあり。大法螺を吹く者あり。鐵の草鞋を穿く者あり。逃げ腰を構へる者あり。左あがら飴屋の共進會を見るが如くなりしが。大日本の軍勢からズドンと一發命とりの鐵砲玉が飛ん

で行くや否や。此奴ア玉乱にげ出せと初めの勢ひ何處へやら。風よ蜘の子を散らすが如くバラ〳〵パッと逃げ失せたり。已れ口はどよもないチャン〳〵坊主め。いよ〳〵降参三遍廻つてお辞儀をするまでは。たとひ奉天府ペキンまでをも跡追ッかけて。李鴻章の息の根を止めるは勿論。以後の見せしめ四百餘洲をも。殘らず奪取ッて呉れんづと。ますます〳〵破竹の勢ひを以て。大日本帝國の海陸軍並び進み。天下向ふ處實に敵なく。連戦連勝つひに奉天府まで一ト握りに握り潰し。イザ是からいよ〳〵ちやん的の本家本元なる。彼の北京城を乘ッ取ッて李鴻章の白髮首を。只一討にポカリと刎落し。四百餘洲のちやん〳〵國を大日本帝國の屬國よして。日出度萬々歳を唱ふると云ふ一條は。先づ當分皆さんのお樂みといたしませう。



○日のもとの威光支那兵目が眩み
○旗艦氣で松島てきと奮せんし
○金州から行くが日本の旅順あり
○北京へ行く道中の旅じゆん口

○まけ嫌ひかとう〳〵で渡韓をし

○峻険もいとわず山路兵すゝめ

○平壌で大まけに賣るぶたのにく

○度胸もそわりうでかない大山氏

○牡丹臺いまでは菊のはなざかり

○日の本の武威よは贈をけし坊主

○佐藤よもからきめに逢ふ支那の兵

○大ぶねに乗た氣でゐてしづめられ

○豚首して仲さいたのむ李こう章

○旭の御旗すゝめて敵の眼をさまし

○やがて北京も捲き上げる獨がん龍

○海ぐんにはあをば咲す吉野かん

○あつい勅語よ嚴寒も打ち忘れ

○旅順口落ちたと聞て李爺は唖

○黄龍もどくがん龍よしつ尾捲き

○よしの艦これは〳〵と威かい衛

○野と山とそろひ野蠻の國ひらき

○この後は何う成る事と清敗し

○根もつよし世界に馨る菊の花
○大鳥はあとにごさず任所立ち
○豚の兵ゐのしゝほどの勇もなし
○警報の張りふだ後備豫備あつめ
○慈姑の一ト山一せん(戰)で譯もなし
○龍頭蛇尾はその國旗見ても知れ
○白旗をかゝげホット息船いくさ
○芥子坊主支ィ那は役にたゝぬなり
○操江するうち軍艦をぶんどられ

○鳥の威に豚は尻尾を捲いて逃げ
○恩賜の烟草兵卒はむせび泣き
○菊の香にとても及ばぬ芥子の花
○尻に帆をかけて支那艦にげて行き
○萬國へ響く君が代歌ふ聲
○世の中は油斷の外に敵いなし
○ウント身を入れから舟を覆へし
○清樂いその後にごつた音に聞え
○芥子粒の樣なちひさなぶたの膽

○聖恩に遠征の苦も忘れぐさ

○清國も二ほんの指で弄らるゝ

○まけだして些しなものゝ直が下り

○にゝとりは豚の喰物にはならず

○この秋は南きん米が大不出來

○米あがり悪いしなまで善くさばけ

○阿片をば好むも道理芥子坊主

○見た處い李鴻章でもしんは馬鹿

○名の通りまつさきかけて譽れ揚げ

○日兵はラッパ支那兵法螺を吹き

○孔明を眞似て水死の表つくり

○高き家の仁にも増したけぶり草

○唐人の開化日本の風俗を眞似

○芥子坊主吹けは散るほど弱い奴

○李鴻章とてお姿を寫眞で見

○朝鮮の歳末いそがしい砂金乞

○支那人の鉢巻手拭なしですみ

○洋刀と共に國威の光りいで

○治世に武備ゝ壯健な身に拔藥
○流されたビン平壤へ浮いて出る
○我軍氣立つはどぬける敵の腰
○軍氣も挫折腰ぬけの支那兵士
○義を見てせざるは勇なしと献金し
○とんぼうは眠れる虎の目を覺し

狂歌

○蔓りし唐撫し子を変蓋しあとに種子蒔くやなぞ撫し子

○賜はりし君が惠みの煙草兵も涙にむせびてぞ吸ふ
○武藏野の月の都に日の御旗わざゝ明るき人や寄るらん
○支那兵も逐散らされて人は武士花は櫻のよし野軍艦
○鶏を割くに牛刀何かせん我兵力で蹴飛ばして遣れ
○チヤン〳〵と騒ぐが否や浮ぶ瀬もなき身となれる豐嶋の果
○是も亦三國一の騒ぎなり東の空にふじの出來ごと
○旭の丸の赤き心をさゝげつゝ君が八千代をいはふ國民
○今までゝ爪を隱せし軍艦よ能ある鷹のとまる吉瑞
○鳳凰城右翼左翼で攻る間に敵は早くも飛で逃げゝり

○音なへど鶏鶏がへしもなかりけりやけを起して遁けし鳳凰
○大言も最早吐けまい我軍に旅順の口をおさへられては
○快戰もあり有れ河と思ひきやみな這々に逃げし鳳凰
○帶の名の南京繻子も弱いかな婦人に迄もしめられて居て
○旅人の徒歩渡り、せし淺川もあし立ずなる冬かれの狀
○其名さへ和尙島とて殺生の掟破らず取りし砲だい
○闇暗の耻明るみに出すものは提灯さげし支那の敗兵
○今からは少しも法螺は吹ぬあり疾も旅順の口を取れて

當世唐詩摘句見立

○何日平二胡虜一。良人罷二遠征一　軍人の遺族
○寧爲二百夫長一。勝作二一書生一　人夫の頭
○誰知明鏡裡。形影自相憐　李鴻章
○縱横計不レ就。慷慨志猶存　東學黨
○當レ令二外國懼一。不二敢覓二和親一　清人の法螺
○誰憐不レ得レ意。長劍獨歸來　牙山の敗將
○文物多師レ古。朝廷半老儒　支那政府

○此地別燕丹壯士髮衝冠　國民の激昂
○傷心江上客不是故鄉人　居留の人民
○分手脫相贈平生一片心　勇士の賤別
○空留一片石萬古在燕山　戰死者の碑
○天顏有喜近臣知　朝鮮國王
○聖代卽今多雨露　君のめぐみ
○陶然共醉菊花林　凱旋の日
○天下雖人不識君　公使の功烈
○白眼看他世上人　劉銘傳

○執之魁頭誰能前　日本刀
○捷書先奏未央宮　成歡豐島の捷
○與君雙棲共一身　日韓同盟

滅茶滅茶節

○日本の意氣地は。餘程強いもの。朝鮮政府助けるチウて。ちやんちやんを。メツチヤ〳〵。
○ちやんちやん坊主は。餘程弱いもの。牙山が守れんチウて。ちりちりばーらばら。メツチヤ〳〵。

○支那の李鴻章は。ヨッポド馬鹿ナ奴。東洋の覇權を握らんチウテ。國土を縮めらる。

○國を思はぬチャン〳〵は。國より身分が大事だチウテ。我がちに逃げて行く。

○日本の兵士は。餘程強いもの。命を捨るは本望だチウテ。我がちに進み行く。

○支那の運命は。餘程近づいた。日本武勇を示さんチウテ。北京城を。メッチャ〳〵。

○支那の海軍士官は。餘程怠惰地あし。未熟の腕前よぎないチ

○支那の李鴻章は。ヨッポド馬鹿ナ奴。東洋の覇權を握らんチウテ。國土を縮めらる。

○國を思はぬチヤン〳〵は。國より身分が大事だチウテ。我がちに逃げて行く。

○日本の兵士は。餘程強いもの。命を捨るは本望だチウテ。我がちに進み行く。

○支那の運命は。餘程近づいた。日本武勇を示さんチウテ。北京城を。メッチヤ〳〵。

○支那の海軍士官は。餘程意地なし。赤熱の腕前よぎないチウテ。十一艘を。メッチヤ〳〵。

○日本の軍人は。餘程きついもの。目ざす所はペキンだチウテ。進み行く。メッチヤ〳〵。

○日本の臣民は。ナカ〳〵忠義もの。軍費にいくらか出したいチウテ。衣類も賣りこかも。メッチヤ〳〵。

○日本の軍人は。ヨッポド強い者。旅順占領支那人敗亡。威海衛も。メッチヤ〳〵。

○支那の兵士は。ヨッポド馬鹿ナ奴。白旗おし立て逃げやうチウテ。我身も生捕れ。メッチヤ〳〵。

○支那の軍艦は。餘程弱いもの。旭の丸國旗にや敵はんチウて。ちりちりばーらばら。

○支那の艦長は。餘程弱いもの。自分の性命が危いチウて。白旗を揚げまする。

○支那の袁世凱は。餘程臆病もの。大鳥公使に敵はんチウて。天津に逃げてゆく。

○支那の兵隊は。餘程悪い奴。兵粮が足りないチウて。牙山を喰荒す。

聞いちよくれ節

○聞いちよくれ。　聞きます仰しやれ何ですか。別れがつらいと豚妾に引かれ。斷るに。斷られぬ。とてあんだい。でれすけさん。きなはつたかし。おや。さうでをか。えー。うしろ髪。

○聞いちよくれ。　聞きます仰しやれ何ですか。好の首途を足つまだてゝ。泣いて。見送る。とこなんだい。でれすけさん。きなはつたかし。おや。さうですか。えー。後かげ。

○聞いちよくれ。　聞きます仰しやれ何ですか。ぬしの出て

ゆく影見送りて。エヽも。邪見あ。とこあんだい。でれすけさん。きなはつたかし。おや。さうですか。えー。まがり角。

推量節

○飴はエー。アラ推量〳〵。朝鮮豚尾は支那よ。ちよいと。さのよやさの。攫ふ。こりやしよい。番する。じつ。日本人。よいやさーあの。よいやさ。さいと。ありやさー。こりやさー。やーとせ。せのえ。ありや推量〳〵。

○何をエー。アラ推量〳〵。小癪なちやん〳〵坊主。ちよいと。さのよやさの。日本。こりやーよい。男見を。じつ。知らないか。よいやさあの。よいやさ。さいと。ありやさー。こりやさー。やーとせ。せのえ。ありや推量〳〵。

○何をエー。アラ推量〳〵。仕合じや仕合へば敗る。チヨイトサノ。ヨヤサノサア。敗けりや。コラショ此身はツ危ふなる。ヨイヤサ。サイト。ハリヤサ。コリヤサ。ヤツトセ。セノエ。推量〳〵。

○腹はエー。アラ推量〳〵。知れぬが其云ふ事も。チヨイトサノ。ヨヤサノ若しやコラショ心をジツ置く西瓜ヨイヤサ。サ

イト○ハリヤサ○コリヤサ○ヤツトセ○セノエ○推量〳〵○
○何をエー○アラ推量〳〵○項羽の最う負けいくさ○チヨイトサノ○ヨヤサノ李爺〳〵コラシヨ汝をジツ如何んせんヨイヤサ○サイト○ハリヤサ○コリヤサ○ヤツトセ○セノエー○スイリヨ〳〵○

○○○○○○○○○

○シンカラ節○

○○○○○○○○○

○今宵忍ぶなら日兵の方へ忍ばんせ○味方咎めたら敵の様子を探りに行くじやと抜けしやんせ○旨々誑して抜出して降参すりや○シンカラ〳〵旨い慈悲や情けを受けてコノ身は眞に楽々○

子規時事一聲

○京城釜山間の軍用電信　電信掛けたか〳〵
○大鳥公使の談判　談判遂げたか〳〵
○袁世凱の夜逃　逐々逃げたか〳〵
○怪しの支那兵　探偵知れたか〳〵
○牙山の大捷　日本勝てたか〳〵
○豐島の戰　支那負けたか〳〵

○新聞通信者　原稿記けたか〳〵
○威海衛にて　砲臺拔けたか〳〵

才見節

○李鴻章とてなど日本は怖い。三度も五度も敗いくさ。ドンと討ちや威海衛も粉微塵。最期ドン〳〵〳〵〳〵。サア〳〵サイゴドン〳〵。

○急けば一足ナァ私しは跡で。篤と思案して行く哩な。オットコリヤ。命ち震ひはどうなろか。サイゴドン〳〵〳〵。

サア〳〵。サイゴドン〳〵。

海あんじ

○アレ見やしやんせ安城渡。宇治の佐々木の先がけも及びないぞへ。松崎氏。

○アレ見やしやんせ彼の首を。小童につられてぶら〳〵と。實に意苦地があいわいな。

○アレ見やしやんせ豚尾軍。いくら力味んで來たとても。及びあいぞへ敗けいくさ。

丹後節

○支那を立てれば。日本が立たぬ。それゝ仕方が下手ぢやげあ。
英魯の仲裁ピンと跳ねたよ。
○二度と負けない。日本の兵士。支那の死骸が山とある。
牙山豐島で。ドンと打つたよ。
○其塲のがれの。袁世凱も。國の加勢を待つ愁さ。
仁川港から。ソッと亡げたよ。
○義理で隣國の。獨立扶け。國威を世界へ輝かす。
歐米各國アッと魂消た。
○二度とすまいぞ日本と軍。支那の財寶がからよなる。
日本へ領地をタント取られた。
○攻る旅順の敵より先きに。沖の千鳥が逃げて立つ。
日本の兵士はドント打つたよ。
○主しは何處かで軍の仕度。私しも跡から斥候する。
旅順口よりソット逃げなよ。

ヒヤ〳〵節

長崎節

○軍しやんせ〳〵。支那を相手よ軍しやんせ。陸にや兵あり馬あり鐵砲玉もある。一萬二萬はあんのその。テモマア强氣な日本だチー。ヒヤ〳〵。

○言ふように出て行きやお支那の都合はヨッポド宜いけれど。此方のお爲は毫頭あい事チノウコレ嘆アヒや人。僅かな給金じや行かりやせぬ。テモマア非道なお政府だチー。ヒヤ〳〵。

○逃げやしやんせ逃げやしやんせ。メッポ矢鱈に逃げやしやん大將達や眞ッ先からでも遁れしやんしたか。如何しても日本よや勝れないテモマア難儀な戰爭だチ。ヒヤ〳〵。

一口はなし

○朝鮮の兵士も今度愈々日本兵と聯合して平壤よ向ッタという。『韓臣の計らひ。

○朝鮮の弊政改革も最早七分通り成就したので彼の内閣員は日本の使節に向ひ『イザ御韓定下され。

○ちやん〳〵坊主は皆んな膽玉がないから。鐵砲の音を聞くと直よ『ズドンと尻餅を突く。

○ちやん〳〵坊主が日本兵に追かけられても只手を合して拜む

ばかりで。何しても逃る事が出來なかつたトサ『夫りや其筈よ。『腰抜だものを。

○日本兵が彼の成歡及び牙山を陷いれたときに。民家の鷄まで。これを祝して『お結構。

雜

人を助くるの替唄『人を指揮する身を持ちながらアノ葉志超はナゼカ弱身に逃げかくれアレ又平壤でドン〳〵討れ死す。

大黑天の替唄『李鴻章と云ふ人は一に大國を踏んまへて。二に憎つくひ仕打して。三に策略の齟齬して。四ッ世の中に笑いれて。五ッいつでも敗けいくさ。六ッ無性に法螺を吹き。七ッなんでも勝つ氣込み。八ッ矢鱈に兵を出し。九ッ此世の別れとて。十ヲでとう〳〵滅亡をる。

おまへまち〳〵替唄『支那はまけ〳〵どぢなもの。逃るとて兵粮や鐵砲を置みやげ。コチヤ日本にやかなやァせぬ。

○お江戸日本橋の替唄

○霹靂響きて天をつき地を破り艦隊そろへて。コレワイサノサ。コチヤ見る〳〵沈む。敵の船コチヤエ〳〵。

○鐵壁瞬くやぶられて青くなり。全軍たちまち總崩れ。コチヤ白旗は櫓にひーらひらコチヤエー〳〵。

○戰雲漠々八道に滿れども。城下の盟ひは遠からずコチヤ奮つて進めよ。旭日軍コチヤエー〳〵。

○豈に天兵に勝つ可きや。手負豚あふげば北京の城上よコチヤ豈かにかゝやく。日章旗コチヤエー〳〵。

臨兒耳節『隙と間があるりやチヨイト。鐵砲に肱突いてサ。嗅ア無事かとサツコラサノ豚尾漢。空を眺めてセツセ〳〵。

他呑節『一偏に立往生清兵あんぞに遣られたなれば。若しや遣れた其時は。嗅アや回向をソーレタノム。

琉球節『早く北京を日本よ取らば通ふて開化にして見たい。ソリヤヨメ〳〵。シンニ。ヨタ〳〵。シテガン〳〵セツセ。

おやまかちやんりん『一端戰爭やつては見たが。どうやら今では後悔だんべ。支那馬鹿爺者。負けたら賞金。

同『いくら躍起に成ても駄目よ。迚も日本よや勝てやせぬ。支那馬鹿爺者。負けたら賞金。

同『九連城でも奉天府でも。矢ッ張り支那兵また負けたんべ。支那馬鹿爺者。負けたら賞金。

同『北京取るのはモウ直きだんべ。そのときやア清帝あやまるだんべ。支那馬鹿爺奢。負けたら賞金。

古茶江節『どれ程仕合ッても敗け軍。コチヤ痩我慢出したが耻かしい。コ豚尾ニ、〳〵。

狂詩

○雜題

○波荒レ豐島ノ邊。艦隊向フ二筒先一。一擊葬ル二于水一。清兵ノ運送船。

○乘レ機頻ニ進擊。海上勝チ誇リ顏。目覺シ日軍艦。振フ威渤海灣。

○吹ク螺ヲ無ク甲斐一。奔命ニ弱虫勞ル。四百餘州ノ闇。揚ル光ヲ日本刀。

○義勇心無ク一モ。支那ノ人足兵。日旗目ノ前ニ閃メケハ合セ掌ヲ降參ノ聲。

○日清事件

○談判破レ來ヲ合戰開キ。日本ノ名分正實ナル哉。尤ナリ也清兵天之罰。

于レ海于レ山爲ニ骨灰一

○雜題

○豚ハ爲シ二四ツン這ヲ一遇フ間ニ無シ。到テ此ニ又難シ言ヒ助ケ吳レト想像ス一場ノ青物市。外ニ天秤棒ヲ一散ス二慈姑ヲ一

○神軍ノ威力震ヒ二乾坤一ニ。敵ハ命唐々潰ソ膽ヲ奔ル。弱莫ノ比スレ羊ニ清史ノ

筆。應レ書ス猛虎驅ルトニ群豚ヲ一

○時事漫吟

○砲聲響レバ響ク海軍ノ功。沈ムニ運送船ヲ。豐島ノ沖。第一ノ戰爭先ヅ示レ腕ヲ。精兵不ニ復ル頼ニ神風ヲ一

訂正增補 支那征伐流行歌 大尾

明治廿七年十月八日印刷　同年十月十二日發行
同　年十月廿日再版　同年十二月五日三版
同廿八年一月十七日四版
同廿八年四月八日增補五版印刷
同年四月十三日發行

定價金八錢　郵稅二錢

著作兼發行者　東京市神田區小川町一番地　藤谷虎三
印刷者　同　市京橋區南佐柄木町二番地　岩本正治
發兌元　同　市神田區小川町一番地　藤谷敬文堂
大賣捌　同　市京橋區桶町一番地　梅原出張店
大阪市東區淡路町二丁目　敬文堂代理店　啓書閣

版權所有

彩花園主人編纂　○郵券代用の向は一割増し

民間至寶

萬藝玉手箱

寸珍横本頗美本
裝釘堅牢全一冊
正價金廿錢
郵税金四錢

本書目次概畧

挿花　茶の湯　男女諸禮式　日用文認方
香道心得　九星方位の吉凶　諸品製造秘法　日本西洋料理法
歩　毛糸編物法　和洋秘傳妙法　染物法　畫學初
教授　作詩法　演説法　衛生法　英學　日本語學　てにをは
圍碁　玉突指南　萬積物圖式　手工法　將棋
接木法　諸栽培法　服忌令其外　折物法　紋形切様　萬落し物
著名山川表

本書の前記目次の如く日常必要の事より、席上にて記憶すべき、諸藝を選み、一々部門を分ちて叮嚀信切に説明したるものあれば、男女の別なく一日も座右缺く可らざる良書にして、實に『民間至寶』の名よ負かざる好冊子なり、大方の君子淑女至急一本を御需あらんことを乞ふ、

●郵便爲換は神田郵便電信局へ宛て御振込あれ

新板廣告

奥秘活術

九星口傳錄

一名人生處世の羅針盤

洋裝菊版形全一冊
正價金一圓
郵税金二十錢
紙數千ページ

小笠原流正式圖解

男女諸禮法

洋裝菊版形全一冊
正價金十三錢
郵税金四錢
紙數百六十ページ

秘訣圖解

柔術擊劍獨習法

附劍舞弓術銃術獨習法

洋裝美製本
四六判全一冊
正價金十三錢
郵税金四錢
紙數百六十ページ

彩花圖主人編纂　○郵券代用の向は一割増し

民間至寶

萬藝玉手箱

寸珍横本頗美本
装釘堅牢全一冊
正價金壱圓
郵税金四錢

本書目次概畧

挿花　茶の湯　男女諸禮式　日用文認方　日本西洋料理法
香道　心得　九星方位の吉凶　諸品製造秘法　染物法　謡學初
歩　毛糸編物法　和洋秘傳妙法　英學　日本語學　てにをは
裁授　作詩法　演説法　衛生法　萬積物圖式　手工法　將棋
圍碁　玉突指南　著名山川表　折物法　絞形切様　萬落し物
接木法　諸裁培法　服忌令其外數十件あり

本書は前記目次の如く日常必要の事より、席上にて記憶すべき、諸藝を選み、一々部門を分ちて叮嚀信切に説明したるものあれば男女の別なく一日も座右缺く可らざる良書にして、實に『民間至寶』の名、眞に負かざる好冊子なり、大方の君子淑女幸愛一本を請あらんことを乞ふ、

●郵便為換は神田郵便電信局へ宛て御振込あれ

新板廣告

奥秘活術
九星口傳錄
一名人生處世の羅針盤
洋裝菊版形全一冊
正價金一圓
郵税金二十錢
紙數千ページ

小笠原流正式圖解
男女諸禮法
洋裝美製本
菊版形全一冊
正價金十三錢
郵税金四錢
紙數百六十ページ

秘訣圖解
柔術擊劍獨習法
附劍舞弓術銃術獨習法
洋裝美製本
四六判全一冊
正價金十三錢
郵税金四錢
紙數百六十ページ

現行規則參照說明 **貸借攬要** 一名金錢物品地所建物 **貸借者心得**

洋裝美本四六判全一冊正價金五十錢郵税金十錢紙數七百ページ

秘傳 **九星獨判斷** 訂正第五版

洋裝美製本全一冊菊版形正價金三十錢郵税金六錢紙數三百六十ページ

米商家秘訣 附諸取引所法并諸規則

洋裝懷中製全一冊正價金郵税共金十五錢紙數百八十ページ

一辞千險 **新撰俳諧二千題** 一名明治發句案内 附日清開戰大勝利祝句集

洋裝懷中製美本全一冊正價金十錢郵税金四錢紙數三百ページ

現行 藥劑師 藥種商 製藥者 賣藥營業者 **必携諸規則類纂**

洋裝美本全一冊正價金郵税共金十錢紙數百五十ページ

本書編纂ノ目的ハ藥劑師 藥種商 製藥者ナル諸規則手續并ニ藥劑師試驗規程ノ現行法令ノミヲ編輯シ該賣藥營業者ニ必要者ヲシテ一目了知セシムルニアリ

海員必携 **商船規則類集**

洋裝菊版形全一冊正價郵税共金四十錢紙數百五十ページ

本書編纂ノ目的ハ專ラ西洋形船舶檢査願者ノ爲メ該者必要ノ西洋形船舶檢査細則及仝手續幷ニ海枝員試驗規程ノ現行法ノミヲ輯錄シ覽者ヲシテ一目瞭然法令ノ現況ヲ洞知セシムルニアリ

洋裝四六版
全一冊正價金二十錢
郵稅金六錢
紙數二百五十ページ

增訂三版　日本華文

本書ハ依田學海、森田思軒兩先生序文、宮崎三昧道人ノ著ニシテ太平記、藩翰譜、曾我物語、花月草紙、弓張月、雨月物語、膝栗毛、八笑人の諸書より雄渾奇絶の文粹の抜き云に向つて精細の批評を爲し日本華文の蘊奥を發揮したるものなり用意周到、評語流暢、一讀神和し氣暢ぶ日本華文の表題に負かずといふへし

成軒河村透纂輯

洋裝菊版形全一冊
正價金三十錢
郵稅金六錢
紙數二百八十ページ

刑事問題全集

本書は刑法と刑事訴訟法とに於ける各學者の疑問其の他法科大學私立各法律學校司法官及び辯護士等の試驗問題中より總計一千四百餘題を精選し之れを各法典編纂の順序に倣ひて纂輯せしものなれば苟も今日法學に從事するの人は坐右一日も缺くべからざる至便至利の珍書なり

洋裝四六版
全一冊正價郵稅共
金十五錢
紙數百六十ページ

商家致富之秘訣
少年立身之方針
必勝頓智之商人

今日の商業界は數十年前の商業界に非らず交通頻繁にして取引も亦日に複雜なり苟も今日の商業界に雄飛せんと欲する者い活潑敏捷にして機に應じ變に處するの方略なかるべからず若し徒に舊慣古株を墨守せばいかで損耗を免かれ得べき今此の書は機に應じ變に處するの道即ち頓智ある商人の事歷を網羅したる者にして其の取引の機敏靈妙なる其應對の意想外に出ずること人をして或は手を拍て感嘆せしめ或い飯を噴きて大笑せしむるに

足る者のみあり商業界に一頭角を現さんとする人い速に一本を購ひ頓智の奥妙秘術を悟り玉へ

西村天囚居士　怪男兒

洋裝菊版形
全一冊正價郵税共
金十五錢
紙數百七十ページ

東京名所案内

洋裝美製本懷中製
全二冊正價金廿五錢
郵税金四錢
紙數二百六十ページ

音曲自慢　親釜集

洋裝美本懷中製
全一冊正價金
郵税共金十錢
紙數百四十ページ

普通教育　帝國作文新書

本書い方今有名なる久永其頴先生の揮毫よ依る江川行書活字を以て鮮明に印刷爲したるものあれば活字體流麗なるは既に諸君の知らるゝ所あり

本書は書中に四季問答、日用書牘、記事論説、諸願届、淨書文例等並に頭書には人事稱呼、助字詳解、格言、熟字解、雜字解、難字解等部類を分ちて鮮明詳細に掲載したるものにて其文體の如きは又他の用文章と月鼈雲泥相違あるなり

本書は獨り其文章のみ成す傍ら習字よ適用し得らるゝ者にて凡文字に志ある壯年諸賢は一日も坐右欠く可からざる者なれは一本を購求し其驚言に非らざるを知り給へ

洋裝菊版形美本
全一冊正價金二十錢
郵税金八錢
紙數二百七十ページ

チヤン〳〵政伐流行　愉快ぶし

洋裝懷中製美本
全一冊正價郵税共
金六錢
紙數百ページ

滑稽人情　落語百種

洋裝懷中製美本
全一冊正價郵税共
金十錢
紙數百五十ページ

發行書肆　東京々橋區桶町一番地　梅原出張店

大賣捌　東京神田區小川町一番地　藤谷敬文堂

特66
449

074331-000-5

特66-449

支那征伐流行歌

月の家かつら／編

M28

CEI-1554